

SSRってどんな部屋？

東校舎1階、たんぽぽ学級1と2の間に、SSRの部屋があります。同じ階のたんぽぽ学級や2年生の児童は、知っている子も多いと思います。時々「ここでは、誰が、どんな勉強をしているの？」と聞かれます。次のお話を読んでみてください。

世の中には、右利きの人、左利きの人（たまには両利きの人）がいます。右利きと左利き、もしくは両利き、どれが優れているのでしょうか？と聞くと、児童は首をかしげながらもどれかに手を挙げようとします。どれも同じという選択肢を加えて聞き直すと、児童は「最初からその選択肢を入れておいてよ。」と言って、安心してどれも同じに手を挙げます。

この後、次のようなことを伝えます。

- ・ 右利きと左利き、両利きというのは、脳のタイプであること、どれがどれよりえらいというわけではないこと。
- ・ ただ、世の中には、右利きが多くて、左利きの方はやりにくいことが多いこと、昔は右利きに合わせるために、左利きを右利きに直したりすることもあったこと。
- ・ 「脳のタイプ」はいろいろあること、多数派と少数派になると、どうしても少数派は我慢していることが多いこと。
- ・ たくさんの人の中で、落ち着いて働くことのできる脳のタイプの人もいれば、少ない人数の方がより落ち着いて活動できる脳のタイプの人がいること。

最後に、少ない人数の方が落ち着ける人も、今はたくさんの人の中でがんばって生活していることをお伝えします。そのタイプの人も、安心して勉強できる環境をつくったのがSSRなのです。「スペシャル サポート ルーム」の略です。

実際に、SSRでの様子や特徴についてお知らせします。

(1) 1日のはじまり・日課

- ① 来室したら、1日の予定を自分で決めて目標を立てる。
- ② 原則、各学年の日課に応じて時間割を設定する。
- ③ 帰る時には、生活の振り返りと、目標に対しての振り返りを行う。

(2) S S Rで育成したい力

- ① 自分の得意や苦手を知る力
- ② 相談する力
 - 苦手な事や場面を自分で説明できる力
 - 分からない時、不安な時、イライラしたときに相談することができる力
- ③ 自分の強みを知り生かす力、苦手な場面ではS O Sを出せる力

(3) S S Rの特徴

- ① 困っている児童を支援する伴走者として、専任の担当者（校内S S R指導員）がいる。
- ② 「教室に戻ってもよい。戻らなくてもよい。」
「教室とS S Rを併用してもよい。」
- ③ 「居場所」にとどまることなく、「成長できる場」である

本校のS S Rがスタートして2年目になります。現在7名の児童が利用しています。

保護者の皆様は、生涯、わが子のサポーターです。わが子がみんなとは違う教室で学習することに不安のない保護者はいません。S S Rで育成したい力やその特徴をご理解いただき、わが子を含む本校児童のよりよい成長を見守っていただけたら幸いです。

